

審査の結果の要旨

氏名 トラン マイ アン

ベトナムでは、市場経済化政策による経済発展政策のもとで、開発重視の都市政策が進められている。この結果、立ち退き問題、農地の過剰な都市用地への転換、投機目的の開発、過剰融資問題など、土地開発にともなうさまざまな課題が山積し、土地開発管理の強化の必要性が指摘されているが、都市計画制度とりわけ都市開発を直接的に規定する詳細地区計画ならびに土地管理行政システムの観点からの研究は十分とは言えない。本研究は、詳細地区計画制度の観点から、ベトナムにおける都市開発制度の歴史の変容とその現代的課題を包括的、体系的に解明したはじめての試みであり、高いオリジナリティを有している。

本研究の目的は以下の4点である。

- (1) ベトナムにおける都市計画制度の変容の特質を明らかにする。
- (2) ベトナムにおける詳細地区計画制度の歴史的成立プロセスならびに市場経済移行下における変容実態を明らかにする。
- (3) ハノイ市を事例として新規開発地区ならびに既存農村都市化地区、それぞれにおける詳細地区計画制度の運用プロセスとその課題を検討する。
- (4) 上記の検討をもとにして、今後の詳細地区計画制度の制度改革の方向性を提言する。

研究の方法は、歴史資料の発掘、土地利用転換分析ならびに各レベルの地方政府担当官に関するインタビュー、住民アンケート調査をもとにした分析に基づいている。

本論文の概要は以下のとおりである。研究の目的、既往研究のレビューならびに分析枠組みを示した第1章に続いて、第2章では、研究全体の前提条件となるベトナムの土地管理システムの歴史的変容過程と課題について分析している。研究の方法を詳しく説明した第3章に続き、第4章では、ハノイ市を事例として、王朝時代、フランス統治時代、改革以前の社会主義的開発の時代、開放政策以降の市場経済移行期における都市開発の変遷を、詳細地区計画の適用プロセスの観点から体系的に整理し、現在の都市開発が、王朝時代以来の社会構造を一方で維持しつつ、社会主義的開発プロセス、市場経済的開発プロセスが混交して進展している事実を解明した。

第5章においては、フランス統治時代にはじまる詳細地区計画制度の変容、ソ連型の計画システムの導入、改革開放後の市場経済への適用を目指した計画制度改革を、体系的に整理し、ベトナムにおける都市計画制度の歴史的変遷過程と、そのような歴史的過程のもとづくりあげられてきた都市計画制度の特質とその課題を示している。

第6章、第7章では、ハノイ市を事例として、新規開発地区、既存農村都市化地区の

それぞれについて、その開発プロセスを詳細地区計画の運用プロセスについて、詳細な現地調査のもとに実態を解明し、その有効性と課題を詳細に検討している。

本研究により得られた知見を以下のようにまとめることができる。

- (1) ベトナムにおける都市開発プロセスは、社会主義的開発プロセスと市場主義的開発プロセスの混交のもとで展開されており、新規開発地区と既存農村都市化地区という対照的で二分された都市化プロセスから構成されている。
- (2) 詳細地区計画制度は、新規開発地区と既存農村都市化地区という全く異なる都市化プロセスをもつ地区において、同じ開発コントロールが適用されており、その事実がさまざまな問題を引き起こしている。
- (3) 改革開放政策のもとで、市場主義的都市開発推進を目的として、都市開発行政の分権化が推進されてきたが、一方で都市計画システムは、基本的には社会主義的な集権システムを有しており、この結果、現実の都市開発と都市計画が深刻な齟齬をきたしており、このことが、さまざまな都市問題を生む要因となっている。

以上の知見に基づき、本研究では、都市計画行政システム改善方向への政策的な示唆として、計画情報の公開、モニタリング機能の強化、透明性の拡大が必要であること、また、土地管理に関わる省庁間の機能分担の輻輳を整徐化し、役割分担を明確化することを提言している

本研究は、ベトナムにおける詳細地区計画制度を中心とした都市計画システム制度に対し実証的分析を加えたうえで、今後の改善のための政策課題を明確に提示しているという点で、他に類例のない先駆的研究であり、学術的に優れた価値を有していると同時に、土地管理システムを改善するにあたってきわめて有益な提言となっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。